

令和6年度第11回 感染症発生動向調査協議会 議事概要

1 日 時 令和7年2月19日（水） 14：00～

2 場 所 岐阜大学医学部本館 1階 入札室（岐阜市柳戸1-1）

3 出席者

委 員：馬場 尚志（岐阜大学医学部附属病院 生体支援センター センター長）

大西 秀典（岐阜大学大学院医学系研究科 小児科学 教授）

澤田 明（岐阜大学医学部附属病院 眼科 臨床准教授）

加藤 達雄（国立病院機構長良医療センター 院長）

大野 元（岐阜県産婦人科医会 理事）

オブザーバー：市原 拓（岐阜市保健所 感染症・医務薬務課 感染症1係長）

事務局：酢谷 奈津（感染症対策推進課 感染症対策第二係長）

高柳 瑳余（感染症対策推進課 主任技師）

伊地田 妙香（感染症対策推進課 技師）

野池 真奈美（保健環境研究所 主任専門研究員）

岡 隆史（保健環境研究所 主任専門研究員）

4 議 題（進行：澤田委員）

（1）前月の感染症発生動向について

（2）検討すべき課題について

（3）その他（感染症対策推進課から）

5 議事概要

【前月の感染症発生動向について】

- ・事務局からの説明は資料のとおり。
- ・月番委員のコメントについては資料のとおり。

【検討すべき課題について】

○岐阜県の急性呼吸器感染症（ARI）定点医療機関に指定について（継続）

- ・（事務局から）4月から開始されます急性呼吸器感染症（ARI）サーベイランスの患者報告につきまして、急性呼吸器感染症の症例定義に当てはまる者全ての報告となりました。
- ・（委員から）急性呼吸器感染症のデータについては、評価の難しい点もあると考えられるので、まずは、そのデータをみて、どのように評価するのか検討する必要があると思います。

○発生動向の評価指標として用いてきた「対2019年比」について

- ・（事務局から）新型コロナ流入前との発生動向を比較するため、標記の指標を用いてきましたが、社会活動も平常に戻ったと考えられることから、従来の対前々年比に戻したいと考えています。
- ・（委員から）新型コロナの流入により多くの感染症の発生動向に発生動向に変化がみられたため、この指標を用いてきました。しかし現状から、今どのような感染症に対して注意すべきか考えることが重要だと思います。そのため、前年と前々年に対する比較を行った方が良いと思います。